



教育センター所報

GALILEI



頸城連山遠望

新しい教育 柏崎からの発信

インターネット版(カラー)は
「柏崎市教育情報支援システム」
を検索し、トップ画面右上の
「GALILEI」をクリックすると閲覧で
きます。

平成 23 年 1 月号

柏崎市立教育センター

1月号 CONTENTS



○ 今月の巻頭言 「親の成長に合わせて、子どもの期待に応えて」

柏崎市教育委員会 教育長 小林 和徳 1

○ 教育センターたより

● **アクセス**（教育研究班） 2

教職員専門研修講座の様子、スクールオフィス情報、支援システム情報

● **プロジェクト K**（教育研究班・科学技術教育） 6

研修会・事業の一コマ、冬だって科学研究！、2月の行事予定

● **心の窓**（教育相談班） 7

ふれあいルームから、カウンセリングルームから

○ **所員随想「つれづれ」** 根立 茂 田中 美沙 9

○ **12月の教育センター参加・利用状況** 10

○ **2月の行事予定表** 11

○ **柏崎の教育を語る会（ポスター）** 12



◆ 5年ほど前に「国家の品格」という大ベストセラーを著した数学者・藤原正彦先生が、正月番組のインタビューで次のようなことを話されていました。

「最近の日本の危機の一因は、国民、とりわけリーダーたちの教養の衰退であり、その底流に活字文化の衰退がある。それだけに、国語力を向上させ、子どもたちに読書に向かわせることが、日本の再生にかかっている。」

何とも大胆な提言でしたが、今までに先生の著作に接したり、何度か講演も聞かせていただいたりしていたので、真意のほどはすぐ理解できました。

さて、日ごろ私たちは意思の伝達を、主に「会話」を通して行っています。「会話」は文脈が整っていなくても、声の調子や顔の表情などで、ある程度は相手に意思が通じます。特に、日ごろ接している人とは、あうんの呼吸で済ますこともあります。また最近、絵文字入りの簡単なメールで、意思の伝達を行う若者も増えてきました。



しかし、文字だけで意思を伝えようとするとき、文脈が整っていなければ、正確に伝えることができません。また文を書くとなると、自分の考えを整理し、書く順序を考え、何を言いたいかをまとめてから文にしなければなりません。自分の感情をどのように表現したらよいか、自分の考えをどのようにまとめたらよいかの工夫もしなければなりません。そのためには語彙を豊かにする「読書」は、表現力を磨く上でも必要不可欠となります。

新しい年を迎えました。新学習指導要領では、幼稚園、小・中学校の教育内容の主な改善事項の1つに「言語活動の充実」を掲げています。国語をはじめ各教科等で、記録・説明・批評・論述・討論などの学習を充実させることが求められています。さらに、新たな情報環境の中で生きていくためには、情報活用能力も欠かせません。

将来ある子どもたちのために、指導の工夫をお願いしたいところです。(nh)

今月の巻頭言

親の成長に合わせて、子どもの期待に応えて

柏崎市教育委員会

教育長 小林 和 徳



昨年この号で「子どもの成長に合わせて、保護者や地域の期待に応えて」という題で、子ども課の教育委員会への移管と小中一貫教育柏崎方式の狙うところについて述べました。機会あるごとにこのことを書き、語り、議論しながら、一定の成果が得られてきたと思っています。子どもの成長に合わせた教育施策の展開は、とりまなおさず保護者や地域の期待に応えることであり、地域に信頼される魅力を持った学校の創造であると信ずるからです。

一方で「子どもの成長」は、当然のことですが「子どもの望ましい成長」でなければなりません。子どもの望ましい成長を見守るのは親や地域が第一義的に在らねばなりません。親や地域が自らも成長し続ける意欲を持ち合わせているかということと……。 (何と偉そうに、失礼にも程がある、のお叱りを覚悟で)

そこで誠に口幅ったい言い方ですが、「子どもが発達課題を乗り越えながら大人になるように、親も親として育つ課題を乗り越えてより良い親になる」という仕掛け(施策)が必要不可欠だということになります。

いわゆる、社会教育の出番であります。親は子どもに義務教育を受けさせる義務があり、義務教育は「意図的、計画的に」子どもに施され、強制力をも伴っています。そして今や、高校までが義務教育に近い状況にあることから、子どもは就学以来18歳まで「意図的、計画的な」学校教育を受けて大人に近づくわけであります。一方、大人は、親は、卒業以来家庭を築き子どもをもうけても、束縛される感覚を持つ教育を受けることはありません。自ら学習することを求めなくとも義務違反でも何でもなく、自由であります。

社会教育は学校教育と異なり、強制力を伴わない教育である以上、「学ぶべき対象に気づかせる」機会を提供し続ける機能を発揮しなければなりません。少なくとも「家庭を築き始める段階」で、親としての発達課題に気づかせる営みを強制力なく施す社会教育の一つのよすがとして、「柏崎の教育3・3・3運動」を位置づけています。キーワードは「大人も一緒に取り組もう」であり、学校も含めコミュニティー一体となつての成果を期待するものです。成長し続ける親の子どもは、期待を裏切ることはないと思います。

一つのことを学習のターゲットに一生涯をかけて挑むのも生涯学習、自分の興味・関心の趣くまま学ぶ、ゆとりある老後に楽しむのも生涯学習ですが、子育てや親育ちという生涯学習は期間限定に近く、もっとも適時になされなければなりません。

教職員専門研修講座の様子

12月に実施した講座の様子について、受講者の感想を基に紹介します。講師先生をはじめ、受講された皆様ありがとうございました。



12月3日(金) 性教育講座

新潟県央工業高校教諭 櫻川 景典 様

■男性教諭の素晴らしい実践者の講義をお聞きでき、とても参考になりました。性教育＝養護教諭ではなく、一般教諭もこのくらいできるというのは力強いと思いました。柏崎からもぜひみんなのレベルアップを図り、男性指導者を育てていきたいです。

■今回見せていただいた中学3年生の授業の内容と、現在行っている小学校の授業の内容のギャップに高いハードルがあると感じました。櫻川先生が真正面から子どもたちに語りかけていることで、子どもたちは真剣に自分のこととして性について考えることができたと思います。養護教諭として、担任の先生方とともに性教育を進めていきたいと思いました。

■授業公開の展開の仕方、大変勉強になりました。父親として、子どもの誕生の喜びや命の大切さについて、授業参観で語った・・・というお話でしたが、以前小学校勤務時に、小3で赤ちゃん誕生の授業をした際、あるお父さんが我が子の誕生の喜びを熱く語ってくれたことを懐かしく思い出しました。性教育は生き方教育と改めて感じた研修でした。



12月3日(金) 子ども虐待防止

山梨県立大学人間福祉学部教授 西澤 哲 様

■現在の日本の虐待の現状や、対応の状況が分かり参考になりました。「発達障害」の捉えとして「内因＋外因」があるのではないかという問題提起についてもうなずけるものがありました。そう考えると、養育環境というものは大変大切なものであると再認識しました。また外からはなかなか介入しづらい家庭内の養育環境を（虐待・ネグレクト）改善する具体的な方法も示唆していただけた研修があればと思います。

■園に勤務する者として、改めて子どもたちをいろんな面から見るこの大切さを実感しました。発達障害という言葉だけで子どもを見てはいけない、その背景にある原因を知ること、地域でできることに少しでも協力したいと思います。

■今まで聞いたことのない話をたくさん聞きました。形だけ、声かけだけの虐待防止ではダメだと認識しました。虐待を扱う機関の厳しい現状を聞き、市民の問題として虐待への対応を考え、声を上げ実行していかなければならないと強く思いました。あっという間の時間でした。もう一度もっとじっくりと西澤先生のお話を聞きたいです。



12月7日(火) 同和教育部落史

平林小学校教頭 岩片 和義 様

■従来の教育で私たちの頭にこびりついてしまっている部落の捉え方を改め、ここで断ち切るべきであることを強く感じた。ケガレ観というものを分かりやすく説明していただきとても良かった。部落の役割のマイナス面をプラス面に変えていく仕事という側面も知ることが出来た。これから、子どもたちに伝えていきたいです。

■今回の講座で「ケガレ観」が部落創出の最大の要件であることが良く分かった。日常生活において「ケガレ観」からくる様々な慣習にも気付くことができた。構えずに失敗しても良いから行動を起こすことというお話をしっかりと受け止めていきたいです。



12月15日(水) 社会科教材研究

学校教育課指導主事 竹田 充

■社会科の教師として自信をもって指導にあたること、そのために専門性を高めなければいけないことを聞き、大いに刺激を受けました。また、子どもにとってできるだけ、身近に感じられる教材で学習していくことが重要であり、そのために社会科教師は足で稼いでいかなければならないこと、とても勉強になりました。

■「学力の山」「知識のピラミッド型構造図」「概念の整理」「EBAの学習材」といった、普段では直感的にしか捉えていなかった考え方を明確に整理できる見方を教えてもらえたことに感動です。とても考え方が整理されました。これから授業を構成するときのフィルターとして活用しようと思います。どうもありがとうございました。



12月16日(木) 学校事務研修Ⅱ

新津第一中学校事務主幹 吉川美恵子 様

■総決算額把握というのが、とても良いものでした。グラフ、数値にして見ると良く分かりました。公私の区分の明確化により、保護者負担軽減につなげていきたいです。ありがとうございました。また、たくさんの預かり金で運営していることを忘れず、職員へも周知していきたいです。

■今まさに私たちが進めていかなければいけない予算委員会の持ち方について、大きなヒントをいただくことができました。校内での自分の役割を果たすために今日の研修を大いに役立てたいと思います。職員研修の一部に組み込んでいただけたところまでいけたらいいなと思いました。



『第9回 柏崎の教育を語る会』 のお知らせ

多様な立場や角度から、未来の柏崎や柏崎を支える子どもの教育の在り方を考える場としてスタートした標記の会も今年度で9回目を迎えました。関係者へは、案内済みですが、お問い合わせは、教育研究班までお願いします。

- と き 平成23年2月5日(土)
13:20～17:00
- 場 所 柏崎市立教育センター
- テーマ 子どもたちの笑顔・無限の可能性
～9歳から15歳までの子育て・親育ち～

■ ■ ■ スクールオフィス情報 ■ ■ ■

📖 児童生徒名簿管理の注意点

来年度からの本格運用開始に向け、保健管理システムのテスト運用が始まりました。保健管理システムの利用には、その前提として児童生徒名簿が正しく登録されている必要があります。しかし、現状ではまだ多くの学校で登録内容に問題があります。特に特別支援学級の児童生徒の協力学級情報が不足しているようですので、以下にポイントを紹介します。（正しく情報が入力されていないと、特別支援学級の児童生徒は1年1組に全員出席番号1番で表示されてしまいます。）

①まずは、児童生徒全員の情報が名簿に登録されている状態にします。

②「学校基本情報管理」のメニューから「クラス編入」の画面を開き、特別支援学級のクラスを表示して「協力学級」欄の「学年 NO.」「クラス NO.」「配席番」を入力します。（この協力学級に関する情報は児童生徒名簿のリスト登録や個別登録からも修正が可能です。この画面を使用するのが簡単です。）

1) 特別支援学級を選択

保存 リセット 2010 年度 クラス: 特A1組

席番	名 前	性別	入校日	退校日	編入先クラス			協力学級		
					学年No.	クラスNo.	公席番	学年No.	クラスNo.	配席番
1		男	2010.04.01	----	91	1	1	2	1	1

3) 「保存」をクリック

2) この欄に、協力学級の情報を入力
この欄の初期値が1年1組1番となっているため、正しい値に変更していない児童生徒は全員1年1組1番として表示されてしまいます。

③次に「学校基本情報管理」のメニューから「出席番号設定」の画面を開き、特別支援の児童生徒が含まれるクラスの出席番号を確認・修正します。

1) クラスを選択 2) 「配布用名簿」を選択

スクールオフィス 2.0 出席番号設定
学校基本情報管理 > 出席番号設定

クラス単位による公文書名簿と配布用名簿の出席番号設定作業を行います。

2010 年度 クラス: 1年1組

☐ 公文書名簿 ☒ 配布用名簿

出席番号の自動設定方法
保存 リセット 席番コピー(公一配) 配布用新席番自動セット

席番	名 前	性別	入校日	退校日	公文書新席番	配布用新席番
1		女	2010.04.01	----	1	1
2		女	2010.04.01	----	1	2
3		男	2010.04.01	----	2	3
4		男	2010.04.01	----	3	4
5		女	2010.04.01	----	4	5
6		男	2010.04.01	----	5	6
7			2010.04.01	----	6	

この数値は、特別支援学級における公文書席番を表しています

2) 公文書席番は、特別支援学級の児童生徒を除いて、連番となるように

3) 配布用席番は、特別支援学級の児童生徒を含めて、連番となるように

■ ■ ■ 教育情報支援システム情報 ■ ■ ■

📖 講習会のテキスト・資料を登録しました

実施日	講座名／資料名
12/21	121_スクールオフィス保健管理講習 NO12_保健管理システムの利用（準備編）.pdf（テキスト第1版） NO13_保健管理システムの利用（検診編）.pdf（テキスト第1版） NO14_保健管理システムの利用（記録編）.pdf（テキスト第1版）
12/27	094_デジタルビデオ編集入門 デジタルビデオ編集入門.pdf（テキスト第8版） ビデオ形式の変換.pdf（フリーソフトウェアによるビデオ形式の変換手順）

■ ■ ■ 情報関連研修講座情報 ■ ■ ■

📖 2月に実施される情報関連講座のご案内

◆H23.2.2(水) スクールオフィス年度更新講習(主に管理権限を有する利用者向け)

スクールオフィスでは、次年度の準備を始めるための「仮年度更新」と、年度末に年度を切り替えるための「年度更新」の処理が必要です。この講座では「仮年度更新」「年度更新」の役割、「年度更新」のために準備しておくべきこと(教職員名簿の管理など)を学習します。H22.12.14(火)に実施した同名講座とほぼ同じ内容で行う予定です。

◆H23.2.22(火) 疑問やトラブルに答える フリーQ&A その9

ICT 活用に関すること、パソコンのトラブルや疑問など、自由に相談できる機会を設けました。他の講座のような事前申し込みは不要ですが、前日までにメールや電話で相談内容をご連絡頂ければ、内容に応じた準備をさせていただきます。

■ ■ ■ セキュリティ情報 ■ ■ ■

📖 セキュリティホール情報

マイクロソフトより、1月12日付で1月の定期更新として、Windowsなどの重要な更新が下記のように公開されました。まだUpdateが済んでいないようでしたら、至急Windows Updateなどを実施していただくをお願いします。

No.	更新の名称	脆弱性等の情報	対象	深刻度
1	MS11-001 Windowsの重要な更新	Windows Backup Manager の脆弱性により、リモートでコードが実行される (2478935)	Windows Vista	重要
2	MS11-002 Windowsの重要な更新	Microsoft Data Access Components の脆弱性により、リモートでコードが実行される (2451910)	Windows XP, Vista, 7 2003Server, 2008Server	緊急

注意 **警告** **重要** **緊急** は右側ほど深刻度が高く、緊急の対応を要します。

研修会・事業の一コマ

・・・ 研修会の様子 & 参加者の声など ・・・

○ 教職員理科研究発表会 (1月14日実施)

◇内 容 第1部では小・中学校各4人の先生方の実践発表、第2部では市立博物館の佐藤俊男学芸員から「柏崎刈羽の自然の魅力」について御講演いただきました。実践発表では、小学校部門・中学校部門の2会場に分かれて発表会を行いました。新学習指導要領で新たに加わった内容についての関する実践報告や教具開発に関する報告がありました。ぜひ、次年度への参考にしてほしいと思います。また、講演会では、柏崎刈羽地区の自然の魅力をたくさんの写真を交えてお話しいただきました。子どもも大人も、自然はただそこにあるものと考えがちですが、その自然を構成している生き物たちが環境の変化とともに少しずつ変わってきています。一歩近づいて、よく観察してみることの大切さをあらためて感じました。



冬だって科学研究！（子どもたちと一緒にチャレンジしてみませんか？）

「科学研究は夏休みにやるものでしょ！」と思っていませんか。夏休みの標本作成相談会でも、お家の方から「標本作りは夏にやるものではないのですか」という問い合わせを受けました。標本作りも科学研究も、実施時期が決まっているわけではありません。冬だからこそできる研究をやってみませんか。冬だからこそできる研究のネタもたくさんありそうです。雪の結晶の観察などポピュラーなものもありますが、お弁当を温かく保つ工夫、雪を早くとかす方法、暖かく過ごすための重ね着のしかた、・・・、といった冬の生活を快適にするための研究もおもしろそうですね。

1・2月の行事予定（研修会など）

○ 小学校3学年「ものの重さと体積」

◇日 時 1月27日（木）15：00～16：45

◇内 容 「ものの重さと体積」の学習は、粒子の保存性にかかわる基本的な見方や概念の育成をねらいとしています。身の回りにあるいろいろなものを利用して体感的に調べたり数量化したりする実験を通して、ものの形と重さ、体積と重さの関係の理解を図る学習について学びます。

○ 小学校5年「天気の変化」

◇日 時 2月8日（金）15：00～16：45

◇内 容 新学習指導要領では、新しく「雲と天気の変化」の内容が加わりました。雲の観察や各種のメディアを利用して得たデータをもとに、天気の変化のきまりをおさえましょう。全天の雲量観察の方法やデジタルコンテンツ等の映像資料の紹介をします。

心の窓

No.137

平成 23 年 1 月 26 日 (水)

〒945 - 0833 柏崎市若葉町 2 - 31

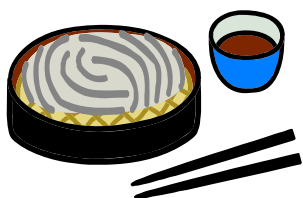
TEL 0257(23)4591 (代表)

FAX 0257(23)4610

ふれあいルームから

☆☆☆ そばうち体験 ☆☆☆

12 月 19 日、ふれあいルームで講師の先生をお招きして、そば打ち体験教室を開催しました。こね鉢や麺棒など普段は目にすることのない道具が並び、本格的なそば打ち体験でした。通級生のみんなも気合十分で臨みました。通級生同士 2 人 1 組になり、先生の説明の通りにそば粉を混ぜたり、こねたりして一つ一つ工程を進めていきます。大人でも難しいと聞いていたので、どうなることかと思っていました



たが、みんな指示どおりにテキパキと作業をこなして、そば生地が出来上がっていきます。そば切りもみんな上手!! たまに太いのはご愛嬌♪ゆで上げから、洗い、盛り付けまで、本当に手際が良いのです。そば打ちをやったことがある子は、わからない人にアドバイスをしたり、「何かすることありますか?」と積極的に聞いたり、どんどん手助けをしてくれました。

体験活動をする、通級生の普段とは少し違う側面を見ることがあります。教室での学習以外のことも生き生きと活動できて褒められるということは、不登校の子が自信を回復する上でとても良い機会だと考えています。どんな子にも活躍できる場所はあるのです。

そばはとてもおいしく出来上がりました。自分たちで打ったそばは、一味違います。そばがあまり好きではないという子も「おいしい」と言って食べていました。そば打ちの準備から指導までして下さった講師の先生やご協力いただいた方々には本当に感謝しています。すばらしい体験活動になりました。



(文責 ふれあいルーム指導員 寺澤 朋法)

カウンセリングルームから



☆☆☆ 「子どものやる気を引き出すために」 ☆☆☆

子どもを育てるとき、「ほめる」ことが大事とよく言われます。では、なぜ「ほめる」ことが大事なのでしょう。

B. F. スキナーは、レバーを押すとエサが出てくる仕掛けがある箱に、空腹のネズミを入れて実験を行いました。そして、偶然レバーを押してエサが出てくる経験をしたネズミは、何度も同じ行動を繰り返すうちに、やがてエサを求めて積極的にレバーを押すようになるという結果を得ました。このことからスキナーは、よい結果が出ることでやる気を起こすと

いうことを考察しています。

前述の実験ではネズミでしたが、同じようなことは、人間についても当てはまるのではないのでしょうか。例えば、子どもが親に言われて手伝いをしていますが、ペースがゆっくりだったとします。ここで、親が子どもをほめる場合と叱る場合の2パターンを考えます。まず、親が手伝いしていることについて子どもをほめた場合、子どもは嬉しくてまた手伝いをしようと思い、実際に手伝いをするようになるでしょう。次に、親が手伝いのペースがゆっくりであることについて子どもを叱る場合、子どもは叱られて悲しかった経験から、叱られるから早くお手伝いをしなくてはと思って、手伝いをするようになるでしょう。どちらの場合も、結果的には手伝いをするようになるという点で同じです。しかし、子ども自身のやる気や意欲につながっているかという点で、大きく異なります。上手にほめられて育った子どもは、意欲をもって物事に取り組むことで、長所を伸ばして、また苦手なことも努力して克服することができるでしょう。まさに「ほめる」ことで、子どものやる気を引き出すことができるのです！

忙しい毎日の中で、子どもをほめることを、つつい忘れがちです。しかし、子どものやる気を引き出すために、もう一度意識して、ほめて育てていきたいものです。

(参考：林洋一 著 「面白くてよくわかる！発達心理学」 株式会社アスペクト)

(文責 カウンセリングルーム相談員 栗脇 瞳)

2月



《学校訪問》

10日(木) 榎原小学校

24日(木) 榎原小学校

《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ〈SST〉

4日(金) 18:30~20:00 中学生第2グループ

10日(木) 16:30~17:30 小学生A・Cグループ

18日(金) 16:30~17:30 小学生Bグループ

25日(金) 18:30~20:00 中学生第1グループ

28日(月) 18:30~20:00 中学生第2グループ

《ふれあいルーム》

3日(木) スキー・スノーボード体験(キューピットバレイ)

17日(木) バス課外活動(新潟方面)

22日(火) ソフィアセンター

28日(月) 3年生を送る会



※今年度のいろいろ
体験グループは、
これで終了です。



《その他の予定》

3日(木) 就学指導委員会通級部会

4日(金) 特別支援教育研修会

7日(月) 特別支援学級・介助員視察(鯨波小・柏崎小)

8日(火) 特別支援学級・介助員視察(新道小・半田小)

9日(水) 第3回就学指導委員会

14日(月) 第4回校内事例検討会(鏡が沖中・半田小)

16日(水) 特別支援学級・介助員視察(二田小・荒浜小)

照顧脚下

教育センター
副所長 根立 茂

この言葉を、禅寺などの玄関に書かれているのを見かけたことがあると思います。「履物をそろえましょう」ということを標語的に使われているそうです。

この言葉を別な解釈をすれば、脚下とは自分の足下、足下を顧みることは我が身や我が心を振り返り、今自身がどのような状態にあるか見極めてことにあたれということ。また、他人と比べてもきりがいいことを気にしないで、自分自身に対して満足でき、自信を持てる状態に置くことだとも解されます。

人は、常に万全の状態でいられることは難しいことから、他人への思いやりの心を忘れることなく、穏やかな心を持ち続けたいものです。そのような自己を確立することは、身近な日常の小さなことから始まるし、また、始めることができると思います。

今年になって盛んに報道されている「タイガーマスク」現象が、単なる流行ではなく、こういった気持ちが日本人に根付くことを願っています。

しんしん

教育研究班
情報指導員 田中美沙

先日、夫と話をしていたところ、「そういえば知り合いから聞いた話だけど、今年は去年よりもカマキリの巣が高い位置にあるから、今年はたくさん雪が降るらしいと言ってたよ。」とのこと。少し気になったので調べたところ、長岡市の酒井與喜夫さんが30年以上かけて、カマキリと積雪の関係を研究していることが分かりました。その方の記事から抜粋しますと、「**カマキリが木の枝葉に産み付けた卵囊の高さから、その年の最大積雪深を予測し、その結果、『カマキリが高い所に産卵すると大雪である。』という言い伝えには十分信憑性がある。**」ことがわかったそうです。しかもこの研究で博士号を取られ、京都大学の理学部長もそのデータの裏付けに、絶賛したそうです。このことから、きっと今年の冬は、またまた大雪になりそうです。

ところで、雪の童謡といえば、楽しい雪遊びの情景を歌った明るい歌が多いですね。ですが、J-POPの雪の歌といえば「なごり雪/イルカ」、「粉雪/レミオロメン」、「雪の華/中島美香」など、少し切ないバラードが多い気がします。大人と子どもの雪に対する捉え方の違いを実感します。ちなみに表題ですが、私が一番大好きな雪の歌「しんしん/ゆず」で、この歌も切ないバラードなのですが、「**人を愛する苦しさを喜びをしました**」という歌詞に感銘を受けました。今年の冬も雪が降ったら、聞きたくなりそうです。

雪が降ったら、アナタはどんな歌が聞きたくなりますか？

H22年度の教育センター参加・利用状況

	研修講座・事業名	7月の 利用数	8月の 利用数	9月の 利用数	10月の 利用数	11月の 利用数	12月の 利用数	H22年度 利用合計数
教育 研究 班	専門研修講座(情報・科学を除く) *	5回 186人	16回 504人	4回 135人	5回 289人	10回 448人	5回 293人	55回 2106人
	共催研修、研修講座	0回 0人	2回 51人	1回 34人	1回 197人	2回 165人	0回 0人	9回 562人
	調査研究員会,教科研修員会	3回 3人	1回 1人	3回 3人	7回 7人	4回 4人	0回 0人	22回 35人
	教育情報化研修講座 *	8回 90人	12回 124人	2回 2人	2回 2人	3回 61人	5回 64人	46回 457人
	情報教育主事の要請支援等	10回 105人	5回 24人	13回 30人	25回 73人	11回 41人	6回 91人	100回 509人
	その他の相談・利用・参加数	0回 0人	0回 0人	0回 0人	2回 3人	1回 2人	0回 0人	22回 137人
	教科書センター利用閲覧数	85人	12人	9人	4人	15人	18人	460人
教育 研究 班・ 科学 技術 教育	理科研修講座 *	1回 17人	3回 51人	2回 50人	2回 12人	1回 5人	1回 4人	16回 212人
	学校等の要請研修	2回 144人	1回 4人	3回 66人	1回 10人	2回 38人	0回 0人	12回 448人
	地域の自然研修・観察会	1回 32人	0回 0人	0回 0人	0回 0人	0回 0人	0回 0人	3回 85人
	科学教育振興事業(科学の祭典・科学教室等)	0人	804人	2,208人	0人	1,300人	0人	8890人
	理科教育の相談・支援	14件	16件	3件	17件	6件	1件	71件
	理科教材・物品の貸出	7件	3件	31件	26件	5件	3件	95件
	(教職員研修の合計)	17人	55人	85人	22人	9人	4人	285人
教育 相談 班	カウンセリングルーム来室相談	新規相談件数	28件	21件	20件	26件	26件	237件
		のべ相談件数	55件	52件	66件	68件	77件	573件
	学校訪問相談	12回	7回	7回	8回	10回	9回	88回
	電話相談	0件	3件	3件	2件	1件	2件	20件
	ソーシャルスキルトレーニング	6回	4回	1回	5回	4回	6回	35回
		31人	22人	5人	26人	22人	37人	191人
	ふれあいルーム在籍人数	小学生	3人	3人	3人	3人	3人	27人
		中学生	8人	8人	9人	9人	10人	74人
	ふれあいルーム通級日数	15日	3日	20日	16日	20日	16日	147日
	ふれあいルーム通級のべ人数	小学生	35人	6人	43人	27人	38人	294人
		中学生	62人	8人	70人	75人	100人	607人
	ふれあいルーム学校復帰人数(部分復帰を含む)	7人	8人	6人	7人	8人	8人	63人
教育団体, P T A, 市民等の利用		422人	358人	270人	263人	344人	201人	2712人
教育センター事業の参加・利用総数		1,328	2,071	3,055	1,135	2,708	954	18,789
教育センターにおける教職員研修講座 (* 印の合計)		14回 293人	31回 679人	8回 187人	9回 303人	14回 514人	11回 361人	117回 2,775人

####

平成22年度 月間予定表

2月

柏崎市立教育センター

日	曜	研修・行事・会議	内部事務▼・出張等	関係事業・施設貸出等
1	火		▼所内会議 13:00 ▼広報3/5号㍻切	
2	水	情・スクールオフィス年度更新研修	子ども安全ネット会議 13:00	子ども課研修(多目)14:00
3	木	ふ・スキー・スノーボード体験(キューピットバレイ)	柏崎養護学校評議員会(小林東)10:00 就学指導委員会通級部会(元気館:小林東)13:30	
4	金	相・いろいろ体験グループ(中②)18:30		特別支援教育研修会(多目)14:00
5	土	第9回 柏崎の教育を語る会		
6	日			
7	月	相・拡大相談班会議 13:00	特別支援学級・介助員視察(鯨波小・柏崎小:小林東、長谷川裕)AM	
8	火	科・小5「天気の変化」15:00	特別支援学級・介助員視察(新道小・半田小:小林東、長谷川裕)AM	事務研推進協議会(多目)9:30 事務研第3グループ(ミーティング)14:00
9	水		第3回就学指導委員会(旧市民会館:小林東、長谷川裕)15:00	育・屋間育成
10	木	相・いろいろ体験グループ(小A・C)16:30	大手町小学校研究会(矢沢)AM 学校訪問(榎原小:笠木、寺瀬)8:30 心のケアセンター運営会議(小林東)10:00	
11	金	建国記念の日		
12	土			
13	日			
14	月		第4回校内事例検討会(鏡が沖中・半田小:小林東)終日	
15	火		県地区理セン幹事会(長岡:酒井)	教育委員会表彰(市民プラザ:所長)15:00
16	水		▼広報3/20号㍻切 特別支援学級・介助員視察(二田小・荒浜小:小林東、長谷川裕)AM	育成委員会座談研修 15:00
17	木	教育センター運営委員会(多目)10:00 ふ・バス課外活動(新潟方面)	要請研修(第一中:酒井)	
18	金	研・若手教員研修サポート終了式 相・いろいろ体験グループ(小B)16:30		
19	土			
20	日			
21	月			
22	火	情・疑問やトラブルに答えるフリーQ&A ふ・ソフィアセンター		定例教育委員会 13:30
23	水			養護教員会(多目)14:30
24	木		学校訪問(榎原小:笠木、寺瀬)8:30	
25	金	相・いろいろ体験グループ(中①)18:30	県育成センター連絡協議会所長会議 13:00(多目) ▼紙資源物回収 県地区理セン研修総会②(長岡:酒井)	育・屋間育成
26	土			枇杷島小竣工式・祝賀会:所長10:00
27	日			
28	月	相・相談班会議 13:00 相・いろいろ体験グループ(中②)18:30 ふ・3年生を送る会		
研・教育研究班 科・科学技術教育 相・教育相談班 ふ・ふれあいルーム 情・情報教育研修 育・育成センター 【 】は未確定の行事・時間				

第9回 柏崎の教育を語る会

多様な立場や角度から「柏崎の教育」をテーマに語り合うことをとおして、未来の柏崎や柏崎を支える子どもの教育の在り方を考える会です。併せて、参加者相互の交流を図り、園・学校や家庭、地域が連携して行う教育の実現に寄与していきます。

子どもたちの笑顔・無限の可能性

～ 0 歳から 15 歳までの子育て・親育ち～



2011年2月5日(土) 13:20~17:00 会場 柏崎市立教育センター

主催：柏崎市立教育センター 共催：(社)柏崎青年会議所

連絡先 柏崎市立教育センター教育研究班 矢沢欣也

TEL:0257-23-4591 FAX:0257-23-1168 Email:kec@kenet.ed.jp

ガリレオ・ガリレイはイタリアの天文学者
で近代科学の父と言われ、経験的・実証的方
法を用いる近代科学の端緒を開いた人です。

新しい教育の創造を志向する私たちにも
ガリレオ・ガリレイのごときたゆまざる創造
と検証の精神が必要であるという趣旨から
情報紙の名称を「GALILEI」としています。

教育センターの情報とともに、柏崎の教育
を広く発信していきます。

所報「GALILEI」 平成23年1月末日発行

編集・表紙写真撮影 中山 博迪

「ガリレイ」に関する意見・感想は、下記へ

E-mail nakayama@kenet.ed.jp



柏崎市立教育センター

TEL(代表) 0257-23-4591

FAX(代表) 0257-23-4610

〒945-0833

新潟県柏崎市若葉町 2-31

教育研究班・情報教育 TEL・FAX 23-1168

教育研究班(科学技術教育) TEL 20-0212 FAX 20-0205

教育相談班(カウンセリングルーム) TEL 32-3397

// (電話相談) TEL 32-4115

E-mail k-center@city.kashiwazaki.niigata.jp